

陀羅尼助：この由緒あるヨシノ療法は二日酔いも防ぐことができる

吉野のメインストリートを歩くと、3本足のヒキガエルの大きな赤みを帯びた像に気付くかもしれません。ヒキガエルやカエルの彫刻、キーホルダー、その他のお土産が町では一般的です。彼らは、仏教と神道の神々をからかったためにヒキガエルに姿が変わった者に関する金峯山寺の話に関連しています。金峯山寺の僧は彼に同情し、後に彼を男に戻しました。この物語は毎年、寺院の蛙飛び行事として人々に記憶されています。これらすべてのカエルとヒキガエルのうち、フジイ陀羅尼助丸の店頭にあるヒキガエルの彫像は、ペアの中で大きく、両方とも3本の足しかありません。

日本では、日本サッカー協会のマスコットキャラクターである三本足のカラスのような八咫鳥のように、三本足の動物は、神道、幸運、再生に関連しています。ヒキガエルについてもっと知りたいので、私はフジイ陀羅尼助丸に入店し、畳の部屋を飾る骨董品に囲まれ、9代目の店主に迎えられました。会社としてのフジイ陀羅尼助丸は1940年代に設立されたが、その家族歴ははるかに遡り、吉野で最も古いお店の1つであると彼は説明しました。陀羅尼助丸としても知られる胃腸の病気の薬草療法として人気があります。修道僧が長い間使用してきたこの治療法には、吉野自身の進化を反映した独特の歴史があります。

吉野は、仏教、神道、地元の民俗信仰が混ざり合った宗教である修験道の修行者のための修行の中心として始まりました。役行者は、修験道の創始者と考えられている7世紀の神秘家でした。彼は修験道の成長の基礎を築いただけでなく、薬草療法に関する詳細な研究を行いました。疫病が蔓延し、薬が存在しなかったことがわかっている時代でした。夢の中でヒキガエルが現れて胃の病気の治療のレシピを彼に与えた後、役行者は大釜で大量に準備し、困っている人に服用したとされています。

役行者の信奉者はこの治療法のレシピを引き継ぎ、フジイ陀羅尼助丸はそれを現代に保存しています。厳選されたオーガニックな成分から薬を製造するのに1ヶ月かかります。それらは、コルクの木の樹皮（キハダ）、センブリ、リンドウ、プレクトランサス、およびゼラニウムの粉末ハーブ、および米粉（カバイコ）です。

この治療法は、消化不良、胸焼け、吐き気、食欲不振、二日酔いなどのさまざまな胃の問題に効果があると言われています。錠剤は食後に水で1日3回服用する必要があり、成人の投与量は毎回20錠です。幸いなことに、錠剤は非常に小さく、各製品に付属の特別なスプーンで一度に10個の錠剤をすくい取ることができます。

近年、陀羅尼助丸は、ビーガンやオーガニック製品を購入する人々の間で人気を博しています。そのパッケージは、明るい緑色のデザインと3本足のヒキガエルのロゴですぐに認識できます。深夜に深酒を頻繁にしてしまう場

合、または胃の痛みの病歴がある場合、陀羅尼助は吉野で見つけることができる最高のお土産の1つになるかもしれません。